

水稻新品種「フクサモチ」について

岡田正憲・今井隆典・本村弘美・西山寿・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)

OKADA, M., IMAI, T., MOTOMURA, H., NISHIYAMA, H. and KAI, S.
A New Variety of Paddy Rice Plant, "Fukusamochi"

水稻西海糯80号は昭和40年から、福岡県・佐賀県において有望品種・奨励品種に採用され、通称名を「フクサモチ」として、普及に移されることになったので、育成の経過ならびに特性の概要をのべて参考に供する。なお、本品種の育成に直接従事した職員は、筆者等および藤井啓史（現農事試験場）である。

来歴ならびに育成経過

フクサモチは昭和31年、農林省九州農業試験場で、「十石」を母、「コトブキモチ」を父として人工交配を行ない、世代促進のため、同年冬から翌春にかけて同場指宿試験地でF₁を養成し、F₂以後は再び九州農業試験場（筑後市和泉）において、系統育種法により育成されたものである。昭和37年F₇より、「西海糯80号」の系統名で関係県に配布して地方的適否を検討した結果、40年6月（F₁₀）、水糯農林糯162号に登録され、通称名をフクサモチと命名された。

特性の概要

1. 形態的特性

極短程であるが、穂長はかなり長く、母本の十石にきわめて類似した草状であり、穂数型に属する。稈の太さは中位で、止葉は直立し、熟色は普通である。無芒で稈先は白く、脱粒性は易である。粒着密度は中、玄米は中形中粒、品質は上の下程度であつて備南糯や神選糯にまさる。食味、餅質ともに良好である。

2. 生態的特性

出穂期・成熟期ともに備南糯と神選糯との中間で、九州北半では晩生に属する糯種である。極短程で、稈性も強剛なため、倒伏にきわめて強い。また葉イモチ病には備南糯や神選糯より弱い、枝梗イモチ病と穂首イモチ病には強い。シラハガレ病については、九州北半に普通に分布するA型菌には弱い、B型菌には

第1表 一般特性

形質	品種名	フクサモチ	(比)	
			備南糯	神選糯
播種期(月日)		5. 26	5. 26	5. 26
出穂期(月日)		7. 4	7. 4	7. 4
成熟期(月日)		9. 13	9. 9	9. 16
成熟期(月日)		11. 6	11. 2	11. 11
成熟期別		晩生	中生	極晩生
稈長(cm)		70	87	93
穂長(cm)		19.3	18.9	18.4
穂数(本)		17.7	20.0	20.0
草型		短程・穂数型	中程・穂数型	やや長程・穂数型
芒の多少	短	無	中	無
稈先色	白	白	中	白
脱粒性	易	易	中	易
粒着疎密	中	中	中	中
玄米	色澤	蠟白	蠟白	蠟白
	形状	中	中	中の門
米	大粒重(g)	22.9	23.0	21.9
	品質	上	中上	中上
a当収量	精糶重(kg)	58.7	60.2	60.9
	玄米重(%)	47.5	47.6	49.0
安	倒伏性	極強	やや強	やや弱
	耐病性	葉イモチ病	弱	やや弱
穂首イモチ病		強	強	強
枝梗イモチ病		強	強	強
シラハガレ病		弱	やや弱	中弱
モンガレ病		強	やや強	弱
	シマハガレ病	やや弱	—	—
調査地	九州農試（普通栽培・生子・生検）			
調査年次	昭35・38・39の3カ年			

それ程弱くない。モンガレ病には強く、シマハガレ病には弱い。生産力は肥沃地または多肥栽培では高いが、地力中位以下の瘠薄地ではあまり高くない。

適地および奨励品種採用県

昭和37年以降3カ年にわたり、各県に配布して地方的適否が検討されるとともに、育成地においても、選抜固定をはかりつつ、次第にその特性が明らかにされた。

本品種の長所とするところは、

- 1 短程で稈性は強剛なため倒伏にきわめて強い。
- 2 品質・食味ともに良好である。
- 3 モンガレ病に強い。

短所とするところは次の諸点である。

- 1 葉イモチ病に弱い
- 2 シラハガレ病には菌系により不安定である。
- 3 適地が肥沃地に限定される。

以上のように、本品種の諸特性から考察すれば、福岡・佐賀県下をはじめとして、有明沿海地、南九州、西四国地方の平坦肥沃地に好適し、イモチ病、シラハガレ病の発生が少ないところが望ましい。昭和40年度より佐賀県で奨励品種に採用され、主として神選糯・農林糯5号に代わるものとして将来約1,500ha（県下糯作付面積の50%）、福岡県では同年より有望品種に採用され、主として備南糯・農林糯5号に代わるものとして将来約3,000ha（県下糯作付面積の60%）の普及が見込まれている。

培 培 上 の 注 意

- 1 短程穂数型であるため、肥沃地に好適し、地方中位以下の瘠薄地と秋落地上には不適である。
- 2 晩生であるため、中山間地以上の標高の高い地には冷害のおそれがあるので、不適である。3葉イモチ病とシラハガレ病抵抗性に弱点をもっているため、これらの初発生に注意して、防除対策の万全が望まれる。
- 4 この種の草型のものは、特に加里成分の欠乏に敏感なので、不足しないように注意すること。5短程のわりに穂が長く、一株穂数が比較的少ない型である。

第 2 表 フクサモチの配布先における試作成績概評

年次	配布 個所数	奨励候補	極有望	有 望	やや 有望	再 検 討	見 込 な し
昭37	16			豊前、筑後、佐賀、 八代、愛媛 5	高知 1	長崎、宇佐、宮崎、都城、 鹿兒島、香川、徳島 7	福岡、熊本 大分 3
38	15		東予 1	鹿兒島、愛媛 2	筑後、佐賀 都城 3	福岡、豊前、八代、香川 小豆、徳島、宮岡 7	宇佐、高知 2
39	14	佐賀 筑後 2		豊前、長崎、愛媛 3	福岡、宮崎 鹿兒島 3	東予、香川、宮岡 3	都城、小豆 徳島 3

ので、栽植密度、施肥量、施肥法などに注意工夫すれば、多収が期待できる。

命 名 の 由 来

主要な適応地の福岡県、佐賀県の頭文字「福・佐」の意味と、さらに「ふく紗」の布のように、餅肌の良いことを併わせ意味する。

結 言

九州地方の水稲糯品種は備南糯・日向糯・祝糯・神力糯・農林糯5号・金作糯・神選糯・三州糯が主要品種であつて、これらの品種の大部分は穂重型であり、一部が中間型である。したがつて倒伏に対しては、いづれも弱く、糯品種共通の一大欠陥であつた。

一方、粳品種ではホウヨク・コクマサリ・シラヌイなど極短程で強程の品種が出現して倒伏に対して安全度が高められた。しかしその反面においては、益々多肥化の傾向が助長されている。

したがつて、糯品種にも粳のホウヨク・コクマサリ・シラヌイに匹敵する極強程で、しかもこれらの品種に似た草型の育成が渴望されていた。フクサモチはこの要望に応じて育成されたもので、シラヌイ程度の短程で、極強程の点を最大の長所とする糯品種である。わが国の糯品種のなかでは、このような草型は実用品種としては最初のものであるが、葉イモチ病・シラハガレ病に弱いという欠点を内包しており、今後改良の余地が残されている。

フクサモチは、備南糯・神選糯・農林糯5号などを対象として普及が見込まれ、あるいはこの種の草型の糯品種育成用として、交配母本としても大いに利用されるであろう。